

第56回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議 事 録

●日時 : 2024年5月24日(金) 14:00～15:20

●場所 : 上尾市コミュニティセンター集会室5・WEB 併用

●資料

議事次第

第55回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事録

資料-1 荒川太郎右衛門地区自然再生事業の目標達成に向けた対応について

資料-2 収支予算書に変更が生じた場合の対応・監査の進め方

資料-3 2023年度収支報告書及び2024年度予算(案)

資料-4 2024年度の協議会および各活動の予定

【議事結果】

- ① 太郎右衛門自然再生地のより具体的なゾーニングの検討が必要と考える。
- ② 「維持管理・環境管理専門委員会」に「生態系モニタリング専門委員会」を統合することについて了承された。
- ③ 「収支予算書に変更が生じた場合の対応・監査の進め方」について了承された。
- ④ 2023年度収支報告書及び2024年度予算(案)について了承された。
- ⑤ 2024年度の協議会および各活動の予定として、上尾市環境推進大会においてミニ講演会への登壇の立候補をお願いしたい。また、2025年1月～3月の予定については、各委員会の中で活動予定について協議しながら実施していく。

【主な議事内容】

●第 55 回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事録

- ・意見なし。

●協議会委員等からの活動報告

- ・自然再生地では、動植物の観察や散策、地域の方々の利用などの様々な活動が行われており、より具体的なゾーニングが必要となっている。
- ・人に接してもらいたいエリアであれば、人の動線を正確にコントロールできるような仕組み、つまりここが人の入れる場所というような印を適切に配置していくという手法がとれるのではないかな。

●荒川太郎右衛門地区自然再生事業の目標達成に向けた対応について

- ・「維持管理・環境管理専門委員会」に「生態系モニタリング専門委員会」を統合することについて了承された。
- ・自然再生目標を定めてから、現在までの間に地球環境は激変している。激変しているといっても、日常、目に見えているものは、ほとんど変わらないように見える。そこで何かを見落としちゃったら、さらに変化を加速させるかもしれない。専門委員会では、将来の方向性をきちんと整理しておかないと、事後的な対応となってしまう事が危惧される。

●収支予算書に変更が生じた場合の対応・監査の進め方

- ・収支予算書に変更が生じた場合の対応・監査の進め方について了承された。
- ・収支予算書を作成した後に、収支に変更が生じる場合は、監査委員を含む協議会委員に変更の予定を連絡し、合意のうえで予算書を変更して、予算を執行する。なお、連絡方法は、メールやファックスとする。
- ・予算書外の変更とみなす判断基準は、「予算書に見込んでいない収入時」、「予算書の各内訳で、予算を上回る支出時」とし、予算書で見込んでいた収支が変更となる場合は変更の連絡は行わない。例えば、助成金申請額に対する助成額減に伴う収支変更や維持管理活動時の寄附金額の増に伴う収支の変更時が該当する。

●2023 年度収支報告書及び 2024 年度予算（案）

- ・2023 年度収支報告書及び 2024 年度予算（案）について了承された。

●2024 年度の協議会および各活動の予定

- ・上尾市環境推進大会においてミニ講演会への登壇の立候補をお願いしたい。
- ・2025 年 1 月～3 月の予定については、各委員会の中で活動予定について協議しながら実施していく。
- ・6 月 15 日のミドリシジミ調査に関しては、別途サイサン環境保全基金の活動もあり、協議会の取り組みと相互乗り入れのような形で実施する。

●その他（報告事項）

- ・第55回協議会の後、委員継続の意思確認として、令和6年4月1日～令和8年度最初の協議会（R8年4～5月頃）までの委員の継続の意思確認の結果、3名の委員はご継続頂けないことになった。別途、新規委員として1名が加わって頂いている。
- ・既に案内のとおり会計に関する監査員は、荒木委員、宮川委員が任命されており、任期は、翌年度の最初の協議会までとなっている。

●その他（意見交換）

- ・自然と人との働きがここまでやってくると、人の好きな自然、人がいい自然だという自然をつくろうという方面に行くのではないか。例えば人が嫌いな生物がいたら何とか排除しようとする。自然を大切にしようという一番の基本が、太郎右衛門地区でも大いに働いてほしい。自然を大切にするという本質を、この辺でもう一回基本に返って考えたらいいのではないか。太郎右衛門地区は、本当の意味の自然が生き生きとした未来が保証される。そうでないと、逆に言うと、太郎右衛門自然公園というのが段々と出来上がってくるのではないか。人と自然との関係の中で、太郎右衛門地区は未来に向かってどういう存在になっていくのか。人のつくり出した人の好きな自然に変わっていくのではないか。これから先も本当の意味で自然を大切にしたい地域であってほしい。本当の意味の自然を、大切にすることと、人と自然とのつながり合いということ、太郎右衛門地区で大いに検討し、考えていってほしい。未来へ向かって素敵な自然が保たれるようにということを感じながら、太郎右衛門地区をこれからも見詰めていきたいと思う。
- ・目標種を指標にしながら、事業を実行してきたが、それだけで足りるのかというあたりの議論を次に加えない限り、多分、目標種の絶滅とともに、我々の活動は絶滅してしまうのではないかという危機感がある。現在の地球環境を基礎にして、何と何が共存できるのか、何と何が共存できない排他的な関係になるのかということ、自然を相手に観察し続けられない限り、答えは見えてこないと思う。そのあたりをみんなで話し合いができる機会というのをぜひ持ちたい。
- ・サクラソウの保護活動をして35年目であるが、決められた方策というのはどんどん変わってしまっていて、現場の変化に応じて管理作業はどんどん変えていかなければならない。そうすると、重荷だけがが増えて、どうするか本当に苦慮している。現状では、外来種が増えている。それでも無理やりどうしても目標とする自然を守っていくという我々の宿命みたいなものを、私たち自身の気持ちも含めて、そして減っていく生き物たちのことも考え合わせて、どうやっていくか思案している。
- ・荒川流域にもコウノトリが飛んできていいのではないかとということで、今何が欠けているのか。ビオトープはそれなりに出来てきているのが、流域においてコウノトリのための人工巣塔を立てることを今後考えていけば、可能性があるのではないかと感じている。
- ・連携企業やボランティアなどの協力者がいて実施できていることがある。それらの効果を検証して情報発信できるようになればと思う。また、外来種を抜くだけではなく、そこに在来野草が来るような取り組みをしないと、同じことの繰り返しになってしまう。あわせて、自然再生地は決して公園ではないということである。要は、いろいろな危険生物も含めて生物多様性で、こころしい再生事業をやっていることを肝に銘じて、何か違う方向に行かないようにしたいと

思う。ただ、本来の自然の良さを分かっていない一般の方が多く、その方々に太郎右衛門の自然再生事業のすばらしさとか、その意味を知ってもらうような仕掛けなり、アプローチをしないと、やはり応援団がふえていかないと思う。そのようなことは、こういう協議会の場以外のところで時間をとってディスカッションできればと思う。

- ・自然再生というのは、いろいろな意味でまだまだ手探りだと思う。そうすると、やはりいろいろな見方、考え方があって、そうした中から我々がこれからどういうふうにやっていけばいいのかというのは手探りで探していかなければいけない。そういう意味では、こういう議論をするのがやはり協議会だと思う。
- ・私たちも事業が自然再生地のそばにあるということで、共存しながらやらせていただきたいと思っている。機械による除草作業では、効果・効率を図りながら、環境美化のために、見た目も重視しながら、引き続き作業をさせていただこうと思っている。

以上